

第2章 農村人口の変容

第1節 人口の規模の推移

蒜山地域及び同地域4か町村における人口規模の昭和30年～平成12年間5年刻みの時系列的推移について、表1、2の資料に基づき総人口及び人口密度の側面から記述すると以下のとおりである。なお、比較のため真庭郡及び岡山県と同資料を付記する。

第1項 総人口の推移

(1) 蒜山地域

表1によると、昭和30年の総人口は16,902人となり、平成12年には9,663人へと減少している。一方、真庭郡の場合は昭和30年に73,647人を数え、平成12年には49,474人まで減少している。反対に岡山県の場合は1,689,800人から1,950,828人へと増加している。

表2により上記した総人口の昭和30年～平成12年の間における増減率をみると、蒜山地域と真庭郡における減少率はそれぞれ42.8%、32.8%となり、蒜山地域の方が10.0ポイント上回り、一方、岡山県は15.4%の増加となっている。

以上のように総人口の推移状況は、岡山県西北部農山村地帯に位置する真庭郡及び同郡内蒜山地域と岡山県全域の場合では相違し、しかも蒜山地域の減少程度は真庭郡レベル以上に顕著となっている。

蒜山地域、真庭郡、岡山県における総人口の増減の推移を5年刻みでみると次のようである。蒜山地域においては昭和30～35年に△7.9%を示し、同35～40年に△12.5%と最高に達し、その後は低下基調で推移し、同55～60年に△1.0%と最低を記録し、その後は△8.4%以下の範囲を上下し、平成7～12年には△4.3%となっている。

上記した人口減少の推移経過を真庭郡の場合と比較すると、昭和30～45年における5年間ごとの減少率は蒜山地域の方が上回るもののかなり接近し、しかも推移パターンは比較的類似している。しかし、昭和45年以降における減少率は真庭郡の方が著しく低く、しかも小幅な変動で推移している。

一方、岡山県の場合は、昭和30～35年と同35～40年の減少率は1.0%台と非常に低水準となり、その後は増加率に転じている。しかし、その増加率は昭和45～50年の6.3%を除き、3.0%以下の範囲で推移し、昭和60年～平成2年以降は1.0%以下となり、特に平成7～12年は0.03%と極僅少の増加に過ぎない。

ちなみに、わが国の総人口は昭和30年に90,077千人を数え、平成12年には126,926千人へと増加し、その増加率は40.9%となっている。上記期間中における増加率の推移を5年刻みでみると、昭和30～35年に4.7%となり、その後5.0%台で推移し、同45～50年に7.0%と最高を記録し、その後は時系列的に下降し、平成7～12年に1.1%となっている。

上記した全国総人口の推移を岡山県の場合と比較すると、同県では昭和40年にかけて1.0%台の減少となり、全国総人口の推移動向と大きく相違している。また、昭和40年以降における総人口の増加率は岡山県の方がかなり下回り、その推移経過のなかで同45～50年に最高増加率を記録している点は両者間に共通している。この期間の著しい増加は、昭和20～25年のベビーブーム期に生まれた女子が出産力の最も高い年齢層に達し、第2次ベビーブーム期を迎えたためである。しかし、上述した蒜山地域においては、このベビーブームを契機に総人口が増加に転ずる状況はみられない。

表1により、蒜山地域における総人口の真庭郡及び岡山県人口に占める割合（対真庭郡比及び対岡山県比）をみると、昭和30年にそれぞれ23.0%、1.00%となり、平成12年にはそれぞれ19.5%、0.49%へと著しく低下している。

上記した対真庭郡比の推移を5年刻みでみると、昭和40年まで22.0%台、同45年から同50年まで21.0%台、同55年から平成2年まで20.0%台、その後は19.0%台とな

っている。一方、対岡山県比は昭和35年に0.93%と1.00%台を僅差ながら割り込み、その後は同45年まで5年ごとに0.1ポイントずつ低下し、同50年に0.64%となり、同60年には0.50%台となり、その後は緩やかな低下に転じ、平成12年に0.49%と0.50%を僅差ながら切っている。

以上のように蒜山地域における総人口の真庭郡及び岡山県に占める地位は時系列的に低下し、特に岡山県に対する地位は顕著に下降している。

(2) 4か町村

表1によると、昭和30年における蒜山地域の総人口は、上記したように16,902人を記録し、その町村別構成割合は湯原町42.8%（総人口7,229人）、八束村26.1%（同4,415人）、川上村21.4%（同3,621人）、中和村9.7%（同1,637人）の順となり、45年後の平成12年には湯原町35.6%（同3,441人）、八束村31.0%（同2,991人）、川上村25.1%（同2,430人）、中和村8.3%（同801人）の順となっている。

以上のように同構成割合の町村間順位には両時点間に変化はみられないが、そのシェアには著しい変化が起こり、湯原町と中和村はそれぞれ7.2ポイント、1.4ポイント縮小し、反対に八束村は4.9ポイント、川上村は3.7ポイント拡大している。

上記した4か町村の昭和30年～平成12年の間における人口の減少率を表2でみると、湯原町52.4%、中和村51.1%、川上村32.9%、八束村32.3%の順となり、湯原町と中和村は50%台と顕著に高く、川上村と八束村は30%台と低くなっている。

以上の人口減少率の推移経過を5年刻みで記すと以下のようである。

川上村では昭和40～45年までは△10.0%前後で推移し、その後は△5.0%以下に急低下し、同55～60年と同60～平成2年には2.0%程度の上昇に転じ、その後は再び低下し、同12年には△1.1%となっている。

八束村は昭和30～35年に△4.3%となり、その後減少率は上昇し、同40～45年に△9.2%と最高に達し、その後は低下し、同50～55年には上昇に転じ、1.6%を記録し、その後は△3.0%前後で推移し、平成12年には△4.0%となっている。

中和村と湯原町は昭和30～35年に△9.0%台で近似し、その後減少率は急上昇し、同35～40年に最高を記録し、中和村は△19.1%、湯原町は△14.2%となり、その後は10.0%以下の範囲を乱高下し、平成2～7年には両町村とも12.0%台に急上昇し、同7～12年に中和村は緩やかに減少し、△1.0%を記録し、一方の湯原町は△7.3%と高い減少率を示している。

第2項 人口密度の推移

蒜山地域の人口密度（人/㎢）は表3に示すとおりである。

昭和30年～平成12年間における人口密度の推移をみると、51人から29人へと低下している。一方、真庭郡の人口密度は、蒜山地域と比べて高く、89人から60人へと低下し、反対に岡山県の場合は200人台と顕著に高く、239人から274人へと増加している。

4か町村における人口密度を比較すると、昭和30年には八束村が最高で70.0人、次いで湯原町50.8人、川上村47.8人、中和村34.3人となっている。一方、平成12年の4か町村の人口密度は、前項で記述した人口の減少速度にほぼ準じて低下し、その町村間順位は上記の昭和30年の場合と比べて一部変動している。すなわち、最高は八束村の48.9人、最低は中和村の16.8人で、川上村と湯原町はその順位が変わり、前者は31.2人、後者は24.3人となっている。

平成12年における岡山県下68町村の中で、人口密度10～20人は7町村、20～30人は2村、30～40人は6町村、40～50人は5町村が該当し、そのいずれの町村とも県北部地帯に位置している。また、真庭郡9か町村（うち蒜山地域4町村）の中で郡南部3町（勝山町、落合町、久世町）は70～160人と高い。

第2節 人口性比及び年齢別人口の推移

第1項 人口性比の推移

(1) 蒜山地域

昭和30年～平成12年間ににおける5年刻みの人口性比（女性100人に対する男性の数）の推移は表4のとおりである。

蒜山地域における人口性比は昭和30年に99.3人となり、同45年に91.3人へと低下し、その後は横ばい状態で推移し、同60年に91.4人となり、平成2年には95.6人と急上昇し、その後は90.0人台で推移し、同12年に90.0人と最低を記録している。

真庭郡の人口性比は昭和30年に97.6人となり、その後は低下し、同40年に90.6人、同45年には89.2人と最低を記録し、同50年に90.9人、同55年には92.8人へと上昇し、その後は92.0人台を横ばい状態で推移し、平成7年には90.0人台に下落し、同12年に90.7人となっている。

上記した人口性比の推移経過のもとで、真庭郡は蒜山地域と比べて昭和50年までの各時点及び平成2年の各時点において概ね1.0～3.0人の範囲で下回り、他の時点では概ね1.0人以下の範囲で上回っている。

一方、岡山県の場合は、昭和30年に93.3人となり、その後は下降し、同40年に90.5人と最低を記録し、その後は上昇し、同50年、同60年には93.8人と最高に達し、その後は緩やかな下降に転じ、平成12年に92.2人となっている。

以上の推移経過のもとで、岡山県の人口性比は蒜山地域と比べて昭和30～40年及び平成2年の各時点で2.0～6.0人の範囲で下回り、他の時点では概ね2.0～3.0人の範囲で上回っている。

上記した人口性比の昭和30年～平成12年間の差（△は低下）は、蒜山地域△9.3人、真庭郡△6.9人、岡山県△1.1の順となっている。

(2) 4か町村

昭和30年の4か町村の人口性比を比較すると、中和村102.1人、川上村99.7人、八束村99.6人、湯原町98.3人の順となっている。

同年以降、各町村における人口性比の時系列的推移経過をみると、以下のように町村間差異が顕著である。

川上村は昭和35年に95.4人へと低下し、その後は同45年まで横ばい状態となり、その後上昇基調で推移し、平成2年に100.5人と最高に達した後は急落している。八束村は昭和40年まで緩やかに低下し、98.3人となり、その後は急落し、同50年に90.0人となり、その後は92.0%前後で推移し、平成12年には幾分急落している。中和村は昭和40年まで急落し、同年に93.9人となり、その後上昇に転じ、同50年に99.1人と高水準に達した後は低下基調で推移し、平成7年に94.0%台となり、その後は横ばい状態で推移している。湯原町は急激に低下し、昭和45年に85.5%と最低を記録した後は88.0人前後で推移し、平成2年には94.5人へ急上昇し、その後は86.0人台に急落している。

以上の推移経過のもとで、平成12年においてける人口性比は、中和村94.9人、川上村94.7人、八束村88.9人、湯原町86.7人の順となっている。

4か町村における人口性比の昭和30年～平成12年の間の差（△は低下）は、湯原町△11.6人、八束村△10.7人、中和村△7.2人、川上村△5.0人となっている。

第2項 年齢構造の推移

年齢5歳階級別に人口の年齢構造及び人口ピラミッドの推移を昭和35年と平成12年の両時点間でみると、それぞれ表5と6、図1と2のとおりである。

(1) 蒜山地域

(a) 男子の年齢構造

昭和35年に0～4歳シェアは8.9%となり、年齢階級が上がるにつれて拡大し、10～14歳シェアが13.3%と最高を占め、15～19歳シェアは6.1%と縮小し、同階級以上のシェアは55～59歳階級まで8.0～5.0%の範囲を乱高下し、その過程で25～29歳シェ

アと30～34歳シェアは8.1～8.2%と高くなっている。60～64歳シェアは4.6%と5.0%を割り込み、同階級以上では年齢が高くなるにつれて縮小し、75～79歳シェアは1.2%、80歳以上は0.9%となっている。

平成12年には0～4歳及び5～9歳シェアはともに3.5%を占め、昭和30年の時点と比べると、それぞれ5.4ポイント、8.5ポイント下回っている。10～14歳シェアは5.7%と拡大し、35～39歳階級までは4.0～5.0%の範囲を乱高下し、40～44歳シェアは6.4%と幾分拡大し、45～49歳階級では8.1%と急拡大し、さらに50～54歳シェアは9.2%と最高を占め、55～59歳及び60～64歳シェアは6.0%台に縮小しているが、65～69歳及び70～74歳シェアはそれぞれ9.1%、8.5%と拡大し、75～79歳シェアは5.5%と縮小し、80歳以上階級シェアは6.0%となっている。

上記した平成12年の年齢階級シェアは昭和35年の時点と比べて、35～39歳階級までは下回り、両時点間の較差は1.3～8.5ポイントの範囲にあり、そのなかで5～9歳及び10～14歳階級はそれぞれ8.5ポイント、7.6ポイントと大きく下回っている。一方、40～44歳階級以上では平成12年の時点の方が上回り、両時点間の較差は1.2～6.4ポイントの範囲にあり、年齢が高くなるにつれて拡大し、70～74歳階級は6.4ポイントと最高を示している。

(b) 女子の年齢構造

昭和35年に0～4歳シェアは8.1%を占め、年齢の高くなるにつれて拡大し、10～14歳シェアは12.8%と最高を記録している。15～19歳シェアは10.0%を大きく割り込み5.5%となり、20～24歳階級以上では7.0%と拡大し、40～44歳階級まで6.2～8.1%の範囲を推移し、その過程で30～34歳シェアは8.1%となっている。45～49歳階級以上では5.0%前後となり、60～64歳シェアは4.0%と5.0%を切り、同階級以上では2.0%台を下降し、75～79歳及び80歳以上はそれぞれ1.9%、1.4%と2.0%を割り込んでいる。

平成12年の0～4歳シェアは3.5%、5～9歳シェアは3.7%と両階級は近似し、10～14歳シェアは5.4%と拡大し、15～19歳階級から35～39歳階級までは2.7～4.3%の範囲を乱高下し、その推移過程において20～24歳階級は2.7%と最低を記録している。40～44歳シェアは5.3%となり、45～49歳階級以上では6.4～9.9%の範囲を上下し、その過程において70～74歳と80歳以上のシェアはそれぞれ9.9%、9.5%と高水準を占めている。

上記した平成12年の年齢階級シェアは昭和35年の時点と比べると、40～44歳階級までは下回り、両時点間の較差は0.9～7.4ポイントの範囲にあり、その最大は10～14歳階級の7.4ポイント、次いで5～9歳階級の6.9ポイントとなり、最小は40～44歳階級の0.9ポイント、次いで15～19歳階級の1.4ポイントとなっている。一方、45～49歳階級以上のシェアは平成12年の方が昭和35年の時点を上回り、両時点間の較差は1.4～8.1ポイントの範囲にあり、その最大は80歳以上階級の8.1ポイント、次いで70～74歳階級の7.8ポイントとなり、最小は55～59歳階級の1.4ポイント、次いで45～49歳階級の1.5ポイントとなっている。

以上で記述した蒜山地域における昭和35年と平成12年の人口の年齢構造とその両時点間の変動は人口ピラミッドの形の変化に明瞭に現れている。

すなわち本書シリーズ第1部で記述したように、昭和25年当時の人口ピラミッドは若い年齢ほど人口が多く、すその広い「富士山型」となっている。しかし、昭和25年以降、出生数が急速に減少したため、同35年の人口ピラミッドは人口減退型を示す「つば型」に近くなっている。そして昭和35年以降、人口の減少は急速に進み、平成12年の人口ピラミッドは「逆三角形型」に近くなり、岡山県の「縦長方形型」とはかなり相違している。

(2) 岡山県

(a) 男子の年齢構造

昭和35年の0～4歳階級シェアは8.3%を占め、年齢が高くなるにつれて拡大し、10～14歳階級は12.7%と最高に達し、15～19歳シェアは10.0%を割り込み、9.3%となり、同階級以上のシェアは縮小基調で変動し、50～54歳シェアは4.8%と5.0%を切り、

75～79歳シェアは1.3%となり、80歳以上シェアは0.8%と最低を記録している。

平成12年に0～4歳シェアは5.1%、5～9歳シェアは5.2%と近似し、55～60歳階級までのシェアは5.7～8.5%の範囲を乱高下し、その最高シェアは50～54歳階級で記録され、60～64歳階級以上のシェアは年齢が高くなるにつれた縮小し、75～79歳シェアは3.1%と3.0%台に低下し、80歳以上は3.3%となっている。

上記した平成12年の階級シェアは、昭和35年と比較すると、35～39歳階級までは下回り、その較差は0.1～7.0ポイントの範囲にあり、10～14歳階級までの較差は年齢の進行とともに拡大し、10～14歳階級は7.0ポイントと最高を記録し、同階級以上では較差は概ね次第に縮小し、35～39歳階級は最低を示している。一方、40～44歳階級以上のシェアは平成12年の方が上回り、その較差は1.1～3.0ポイントの範囲で、全体的に年齢が高まるにつれて拡大し、その最高ポイント3.0ポイントは65～69歳及び70～74歳階級となっている。

(b) 女子の年齢構造

昭和35年に0～4歳階級シェアは7.3%となり、同シェアは年齢階級が上がるにつれて拡大し、男子の場合と同様に10～14歳シェアが11.2%と最高を記録し、15～19歳シェアは10.4%と僅差ながら縮小し、20～24歳階級以上のシェアは7.8～1.3%の範囲を年齢が高くなるにつれて緩やかに縮小し、その推移過程において50～54歳シェアは5.1%、65～69歳シェアは2.8%、75～80歳シェアは1.6%、80歳以上シェアは1.3%と最低となっている。

平成12年の0～4歳及び5～9歳シェアはともに4.5%となり、10～14歳階級以上のシェアは6.0%前後を中心に5.0～8.0%の範囲を乱高下し、その過程において50～54歳階級は8.0%と最高を記録し、次いで25～29歳階級の7.0%となっている。

上記した平成12年の年齢階級シェアは昭和35年の時点と比べると、35～39歳階級までは下回り、その較差は0.8～6.2ポイントの範囲となり、その最高6.2ポイントは10～14歳階級、最低0.8ポイントは25～29歳階級となっている。40～44歳階級のシェアは両時点とも5.8%と同水準となり、45～49歳階級以上では平成12年の方が上回り、その較差は0.7～5.2ポイントの範囲にあり、その最高5.2ポイントは80歳以上階級、最低0.7ポイントは45～49歳階級となり、他の年齢階級では3.0ポイント前後となっている。以上で記述した岡山県における昭和35年と平成12年の年齢構造を人口ピラミッドの形でみると、昭和35年は「つぼ型」に近く、蒜山地域と類似している。しかし、平成12年は「縦長方形型」に近く、蒜山地域の「逆三角形型」に近い形とは異なっている。

(3) 4か町村

4か町村の昭和35年と平成12年における年齢5階級別人口構造は表5に示すとおりであるが、前述の蒜山地域の同構造に照らし、各町村の特徴を略記すると以下のようである。

① 川上村

(a) 男子の年齢構造

昭和35年の年齢階級別シェアは、かなりの階級において蒜山地域を上回り、その較差は0.1～0.6ポイントの範囲となっている。反対に下回る階級は0～4歳、10～14歳、35～39歳、60～64歳、65～69歳、80歳以上の階級で、その較差は概ね0.1～0.6ポイントの範囲にあるが、10～14歳階級は1.2ポイントと突出している。一方、5～9歳階級シェアは同水準となっている。

平成12年の年齢階級別シェアは、0～4歳、5～9歳、15～19歳、20～24歳、35～39歳、45～49歳、80歳以上の階級で、蒜山地域を上回り、その較差は大半が0.4～0.8ポイントの範囲となっている、20～24歳及び45～49歳階級シェアは突出し、それぞれ1.7ポイント、1.3ポイントとなっている。なお、10～14歳階級のシェアは同水準となっている。

(b) 女子の年齢

昭和35年の年齢階級別シェアは0～4歳、20～24歳、25～29歳、45～49

歳、50～54歳、55～59歳の階級シェアにおいて蒜山地域を下回り、その較差は0.2～0.9ポイントの範囲にある。一方、30～34歳、35～39歳、80歳以上の階級は同水準となっている。上記以外の階級シェアは蒜山地域を上回り、その較差は0.1～0.8ポイントとなっている。

平成12年の年齢階級別シェアは、5～9歳及び50～54歳階級以上の8階級において蒜山地域を下回り、その較差は0.2～1.4ポイントの範囲で、そのなかで1.0ポイント以上の階級は65～69歳と70～74歳階級となっている。0～4歳及び10～14歳から40～44歳まで8階級のシェアは蒜山地域を上回り、その較差は0.1～1.3ポイントの範囲で、最高の較差は15～19歳階級となっている。なお、45～49歳階級シェアは同一水準を示している。

② 八束村

(a) 男子の年齢構造

昭和35年の年齢階級別シェアは、0～4歳、15～19歳、25～29歳、50～54歳、65～69歳階級において蒜山地域を上回り、その較差は大半が0.3～0.6ポイントの範囲にあり、0～4歳階級のみ1.0ポイントとなっている。70～74歳、80歳以上の2階級は蒜山地域と同水準となり、残りの10階級のシェアは蒜山地域を下回り、その較差は0.1～0.6ポイントの範囲となっている。

平成12年の年齢階級別シェアは、20～24歳、45～49歳、50～54歳、60～64歳及び70～74歳から80歳以上の7階級において蒜山地域を下回り、その較差は0.1～1.0ポイントの範囲にあり、そのなかで0.5ポイント以下の較差は20～24歳、45～49歳、80歳以上の3階級、残りの4階級における較差は0.9～1.0ポイントとなっている。55～59歳階級のシェアは蒜山地域と同水準となっている。一方、上記以外の階級のシェアは蒜山地域を上回り、その較差は0.1～0.8ポイントの範囲となっている。

(b) 女子の年齢構造

昭和35年の年齢階級別シェアは、5～9歳、20～24歳、35～39歳、40～44歳、55～59歳、75～79歳、80歳以上の7階級において蒜山地域を下回り、その較差は大半が0.1～0.6ポイントの範囲にあり、5～9歳及び20～24歳階級はそれぞれ1.6ポイント、1.1ポイントと突出している。上記以外の10階級のシェアは蒜山地域を上回り、その較差は大半が0.1～0.6ポイントとなり、25～29歳及び50～54歳の2階級はいずれも1.0ポイントと突出している。

平成12年の年齢階級別シェアは蒜山地域を上回る階級と下回る階級が相半ばし、上回る階級は10～14歳階級以下、25～29歳から30～34歳、40～44歳から50～54歳の8階級で、その較差は大半が0.1～0.6ポイントの範囲にあるが、25～29歳階級は1.1ポイントと突出し、30～34歳及び40～44歳階級は0.8ポイントとかなり高くなっている。

③ 中和村

(a) 男子の年齢構造

昭和35年の年齢階級別シェアは、5～9歳、10～14歳、20～24歳、35～39歳、40～44歳、45～49歳、60～64歳、80歳以上の8階級において蒜山地域を下回り、その較差は0.1～0.8ポイントの範囲にあり、50～54歳と55～59歳の2階級では同水準となっている。一方、他の年齢階級シェアは蒜山地域を上回り、その較差は大半が0.1～0.4ポイントとなっているが、25～29歳と0～4歳の2階級はそれぞれ1.9ポイント、1.0ポイントと突出している。

平成12年の年齢階級別シェアは、0～4歳から15～19歳、30～34歳から40～44歳、55～59歳と60～64歳、75～79歳と80歳以上の11階級において蒜山地域を下回り、その較差は7階級で0.1～0.6ポイント、残りの4階級では0.9～1.9ポイントと高く、その階級は5～9歳、10～14歳、35～39歳、60～64歳の4階級が該当する。

(b) 女子の年齢構造

昭和35年の年齢階級別シェアは、0～4歳、15～19歳、25～29歳、45～4

9歳、50～54歳、60～64歳から70～74歳までの8階級において蒜山地域を下回り、その大半の較差は0.1～0.4ポイントの範囲にあり、25～29歳階級は2.4ポイントと突出している。一方、残りの9階級では蒜山地域を上回り、その較差は大半が0.1～0.5ポイントとなり、0.9～1.0ポイントと高い水準の較差は5～9歳及び40～44歳の2階級が該当する。

平成12年の年齢階級別シェアは、5～9歳から15～19歳、40～44歳、55～59歳、65～69歳の6階級において蒜山地域を下回り、その較差は大半が0.9～2.7ポイントとなり、特に5～9歳及び10～14歳階級はそれぞれ2.0ポイント、2.7ポイントと突出し、15～19歳の階級は0.2ポイントとなっている。なお、60～64歳階級は蒜山地域と同一シェアとなっている。上記以外の10階級は蒜山地域を上回り、その較差は概ね1.0～1.6ポイントの範囲にあり、特に45～49歳及び70～74歳階級はそれぞれ3.6ポイント、2.8ポイントと突出している。

④ 湯原町

(a) 男子の年齢構造

昭和35年の年齢階級別シェアは、10～14歳、20～24歳、35～39歳、60～64歳、80歳以上の5階級において蒜山地域を下回り、その較差は大半が0.1～0.3ポイントで、40～44歳階級のみは1.0ポイントとなっている。一方、蒜山地域と同水準の年齢階級は40～44歳から50～54歳及び65～69歳から75～79歳の6階級に及んでいる。残りの年齢階級において蒜山地方を上回り、その較差は0.1～0.3ポイントとなっている。

平成12年の年齢階級別シェアは、0～4歳から35～39歳、45～49歳の9階級において蒜山地域を下回り、その較差は大半が0.1～0.6ポイントとなり、0.9～1.5ポイントの較差は15～19歳、20～24歳、45～49歳の3階級が該当する。

(b) 女子の年齢構造

昭和35年の年齢階級別シェアは、0～4歳、10～14歳、15～19歳、40～44歳、50～54歳、60～64歳から70～74歳の8階級において蒜山地域を下回り、その較差は0.2～0.4ポイントとなっている。一方、蒜山地域と同一水準の年齢階級は35～39歳、75～79歳、80歳以上の3階級となっている。上記の年齢階級を除く6階級において蒜山地域を上回り、その較差は大半が0.2～0.4ポイントで、20～24歳階級のみ1.1ポイントと突出している。

平成12年の年齢階級別シェアは、0～4歳及び10～14歳から50～54歳の10階級において蒜山地域を下回り、その較差は大半が0.7～1.1ポイントとなり、30～34歳と50～54歳の2階級は0.1～0.2ポイントに過ぎない。一方、55～59歳から80歳以上まで6階級は蒜山地域を上回り、その較差は大半が1.1～1.5ポイントで、70～74歳及び75～79歳の2階級は0.5～0.8ポイントとなっている。なお、5～9歳階級は蒜山地域と同一シェアとなっている。

以上で記述したように4か町村の15歳以上人口の年齢階級別シェアには僅差ながら町村間差異がみれる。しかし、全体的にみると、先に図示した蒜山地域の人口ピラミッドの形と異なるものではない。

第3項 年齢3区分別人口の推移

昭和30年～平成12年間における5年ごとの年齢3区分別人口及び年齢3区分別人口の増減の推移をみると、それぞれ表6、7、8に示すとおりである。

1 年齢3区分別人口の推移

(1) 蒜山地域、真庭郡及び岡山県

(a) 蒜山地域

表6によると、昭和30年における年齢0～14歳人口（以下、年少人口）は5,740人、年齢15～64歳人口（以下、生産年齢人口）は9,941人、年齢65歳以上人口（以下、老年人口）は1,221人となっている。

同年以降、年齢3区分別人口の5年ごと増減の推移を表7でみると、年少人口は各時点

において減少し、その減少率は昭和35～40年、同40～45年、平成2～7年は20%台と高く、それぞれ26.4%、25.4%、22.4%を記録し、同50～55年及び55～60年は5%以下と低く、それぞれ5.0%、3.6%となり、他の時点は10%前後で推移している。生産年齢人口は全時点において減少し、その減少率は平成2～7年に14.1%と最高を記録し、他の時点は概ね7～8%で推移している。老年人口は昭和30～35年に0.3%減となり、その後は増加に転じ、10%台で推移し、平成2～7年に19.4%と最高を記録している。

以上の推移経過のもとで、昭和30年に対し平成12年における年少人口は78.8%減の1,215人、生産年齢人口は46.6%減の5,310人となり、一方、老年人口は148.8%増の3,138人となっている。なお、老年人口が年少人口を初めて上回ったのは平成2年である。

(b) 真庭郡

昭和30年の年少人口は24,812人、生産年齢人口は43,499人、老年人口は5,336人を数えている。

同年以降、年齢3区分別人口の5年ごと増減の推移をみると、年少人口は全時点に亘って減少し、その減少率は昭和35～40年と同40～45年に20%台と高く、それぞれ25.5%、23.2%を記録し、最低は昭和50～55年及び同55～60年の1.6%となり、他の時点は10%前後で推移している。

以上の推移経過のもとで、昭和30年に対し平成12年における年少人口は83.9%減の6,993人、生産年齢人口は35.6%減の27,998人、老年人口は171.3%増の14,479人となっている。なお、老年人口が年少人口を上回ったのは蒜山地域と同様に平成2年となっている。

(c) 岡山県

昭和30年の年少人口は540,405人、生産年齢人口は1,031,482人、老年人口は117,901人を数えている。

同年以降、年齢3区分別人口の5年ごと増減の推移をみると、年少人口は昭和45～50年及び50～55年にそれぞれ8.3%、1.8%と増加し、他の時点は減少し、その減少率は大半の時点において10%以上となり、同35～40年は17.4%と最高を記録している。一方、10%以下の減少が同40～45年、同55～60年にみられ、それぞれ2.9%、3.5%となっている。生産年齢人口は平成7～12年に2.2%減となり、他の時点は4%以下の増加となっている。老年人口は全時点で増加し、その増加率の最高は平成2～7年の18.7%、最低は昭和30～35年の6.9%、他の時点は15%前後で推移している。

以上の推移経過のもとで、昭和30年に対し平成12年における年少人口は46.1%減の291,346人、生産年齢人口は22.7%増の1,265,122人、老年人口は233.9%増の393,658人となっている。なお、老年人口が年少人口を上回ったのは平成7年となっている。

以上で記述した蒜山地域の年少人口、生産年齢人口、老年人口の真庭郡及び岡山県の同人口に占める割合（対真庭郡比及び対岡山県比）の推移動向は表6によると以下のようである。

対真庭郡比をみると、年少人口は昭和30年に23.1%となり、同40年まで横ばい状態となり、その後下降し、同55年に20.7%となり、平成2年まで横ばい状態で推移し、その後再び下降し、同12年に17.4%と最低を記録している。生産年齢人口は昭和30年に22.9%となり、その後は極めて緩やかに下降し、同40年に21.8%、同60年に20.2%、平成7年に19.2%となり、同12年は19.0%と最低を記録している。老年人口は昭和30年に22.9%となり、その後は21.0%前後で推移し、その推移過程において同55年に20.8%と最低を記録し、平成12年には21.7%となっている。

対岡山県比をみると、年少人口は昭和30年に1.06%となり、その後は下降パターンで推移し、同40年に0.94%と1.00%を切り、同50年に0.56%となり、その後は0.50%台で推移し、平成7年に0.48%と0.50%を割り込み、同12年に0.42%と最低を記録している。生産年齢人口は昭和30年に0.96%となり、その後は緩やかに下降し、同60年に0.56%と0.50%台に乗り、平成7年に0.44%となり、同12年に0.42%と最低を記録している。老年人口は昭和30年に1.04%となり、その後は緩やかな下降パターンで推移

し、その推移過程において同 35 年に 0.97% となり、同 50 年に 0.87% となり、その後は 0.80% 台を下降し、平成 12 年に 0.80% と最低を記録している。

(d) まとめ

上述した蒜山地域、真庭郡及び岡山県の年齢 3 区分別人口、すなわち、年齢 0～14 歳（年少人口）、15～64 歳（生産年齢人口）、65 歳以上（老年人口）の昭和 30 年～平成 12 年間ににおける推移動向をみると、年少人口は減少パターンで推移し、生産年齢人口は蒜山地域と真庭郡は減少パターン、反対に岡山県は増加パターンで推移し、老年人口は増加パターンで推移している。

以上の推移経過のもとで、昭和 30 年と平成 12 年の両時点間における増減率の概数を比較すると、年少人口の減少率は真庭郡 84%、蒜山地域 79%、岡山県 46% の順となっている。生産年齢人口は蒜山地域と真庭郡ではそれぞれ 47%、36% の減少率となり、反対に岡山県は 23% の増加率となっている。老年人口の増加率は岡山県 234%、真庭郡 171%、蒜山地域 149% の順となっている。

なお、老年人口が年少人口を上回った時点は蒜山地域と真庭郡は平成 2 年、岡山県は同 7 年となっている。

蒜山地域における年齢 3 区分別人口の対真庭郡比及び対岡山県比の昭和 30 年と平成 12 年の両時点間推移をみると、対真庭郡比は年少人口では 23.1% → 17.4%、生産年齢人口は 22.9% → 19.0%、老年人口は 22.9% → 21.7% となっている。一方、対岡山県比は年少人口では 1.06% → 0.42%、生産年齢人口は 0.96% → 0.42%、老年人口は 1.04% → 0.80% となっている。以上のように蒜山地域における年少人口、生産年齢人口及び老年人口の対真庭郡比及び対岡山県比は時系列的に低下し、その低下の度合いは老年人口と比べて年少人口と生産年齢人口の方が大きく、とくに対岡山県比の場合に顕著である。

(2) 4 か町村

表 6 によると、年少人口は昭和 30 年に川上村は 1,199 人、八束村は 1,515 人、中和村は 557 人、湯原町は 2,469 人を数えている。同年以降、年少人口の時系列的推移を表 7 でみると、川上村と八束村は昭和 55～60 年にそれぞれ 1.2%、1.8% の増加となり、他の時点では減少し、同 35～40 年及び同 40～45 年は減少率は特に高く、20.0% を上回っている。中和村と湯原町は全時点に亘り減少し、その減少率は乱高下しているが、中和村は平成 2～7 年に 41.4% と突出している。

以上の推移経過のもとで、昭和 30 年に対し平成 12 年に川上村は 71.9% 減の 337 人、八束村は 72.1% 減の 423 人、中和村は 87.4% 減の 70 人、湯原町は 84.4% 減の 385 人となっている。

生産年齢人口は昭和 30 年に川上村は 2,142 人、八束村は 2,574 人、中和村は 968 人、湯原町は 4,257 人を数えている。

同年以降、生産年齢人口の時系列的推移をみると、各町村とも全時点に亘って減少し、その減少率は乱高下し、最高を記録した時点は町村によって相違している。すなわち、湯原町、中和村、川上村は平成 2～7 年にそれぞれ 19.3%、19.0%、12.5% の最高値を示し、八束村は昭和 45～50 年に 7.7% を示している。

以上の推移経過のもとで、昭和 30 年に対し平成 12 年には川上村は 35.8% 減の 1,376 人、八束村は 35.2% 減の 1,667 人、中和村は 53.7% 減の 448 人、湯原町は 57.3% 減の 1,819 人となっている。

老年人口は昭和 30 年に川上村は 280 人、八束村は 326 人、中和村は 112 人、湯原町は 503 人を数えている。

同年以降、老年人口の時系列的推移をみると、川上村と八束村は全時点に亘って増加し、その増加率の最高は平成 2～7 年に記録され、それぞれ 18.8%、22.0% となっている。一方、中和村と湯原町は昭和 30～35 年にそれぞれ 5.4%、0.4% の減少となり、その後は増加に転じ、その最高増加率は中和村は平成 2～7 年の 31.6%、湯原町は昭和 40～45 年の 20.7% となっている。なお、老年人口は年少人口及び生産年齢人口と異なり、減少率 10～15% 前後の期間がかなり長く、特に川上村と八束村は昭和 35 年～平成 2 年の 7 時点に亘っている。

以上の推移経過のもとで、昭和30年に対し平成12年に川上村は156.1%増の717人、八束村は176.4%増の901人、中和村は152.7%増の283人、湯原町は145.9%増の1,237人となっている。

以上で記述した4か町村の年齢3区分別人口の昭和30年～平成12年間における推移状況をまとめると以下のようである。

年齢3区分別人口の推移状況は4か町村とも共通しており、年少人口と生産年齢人口は減少パターン、反対に老年人口は増加パターンで推移し、それぞれの増減率の概数（小数点以下四捨五入）を町村間で比較すると以下のとおりである。

年少人口の減少率は中和村87%、湯原町84%、川上村と八束村72%の順となっている。生産年齢人口の減少率は湯原町57%、中和村54%、川上村36%、八束村35%の順となっている。老年人口の増加率は八束村176%、川上村156%、中和村153%、湯原町146%の順となっている。

なお、老年人口が年少人口を上回った時点は川上村、八束村、中和村は平成2年、湯原町は昭和60年となっている。

2 年齢3区分別人口割合の推移

(1) 蒜山地域、真庭郡及び岡山県

(a) 蒜山地域

表8によると、昭和30年に年少人口34.0%、生産年齢人口58.8%、老年人口7.2%となっている。同年以降、年少人口シェアは昭和40年に20%台に低下し、同55年には20%台を割り、その後は10%台を下降している。生産年齢人口は昭和40年に60%台に乗り、同50年に65.3%と最高に達し、その後は60%台を下降し、平成7年に50%台となり、同水準を下降している。老年人口シェアは昭和40年に10%台に乗り、同水準を上昇し、平成2年に20%台に達し、同12年には30%台に乗っている。

以上の推移経過のもとで、昭和30年に対し平成12年における年少人口シェアは21.4ポイント、生産年齢人口シェアは3.8ポイント縮小して、それぞれ12.6%、55.0%となり、老年人口シェアは25.2ポイント拡大し、32.4%となっている。

(b) 真庭郡

昭和30年の年少人口シェアは33.7%、生産年齢人口シェアは59.1%、老年人口シェアは7.2%となっている。

同年以降、年少人口シェアは縮小を続ける過程において昭和40年に20%台となり、同55年に10%台に下落し、それ以後は10%台を下降している。生産年齢人口は昭和35年に60%台に達し、その後は平成2年まで60%台を乱高下し、同7年に50%台に下落し、その後は50%台を下降している。老年人口は昭和40年に10%台に乗り、その後は同水準台を上昇し、平成2年に20%台に達し、その後は同水準台を上昇している。

以上の推移経過のもとで、昭和30年に対し平成12年における年少人口シェアは19.6ポイント、生産年齢人口は2.5ポイント縮小し、それぞれ14.1%、56.6%となり、反対に老年人口シェアは22.1ポイント拡大し29.3%となっている。

(c) 岡山県

昭和30年の年少人口シェアは32.0%、生産年齢人口シェアは61.0%、老年人口シェアは7.0%となっている。

同年以降、年少人口シェアは昭和35年に20%台に下落し、その後同水準台を下降し、平成2年に10%台となり、その後は10%台を下降している。生産年齢人口は60%台を乱高下しながら推移している。老年人口は昭和50年に10%台に乗り、その後は10%台を上昇し、平成12年に20%台に達している。

以上の推移経過のもとで、昭和30年に対し平成12年における年少人口シェアは17.1ポイント縮小し14.9%、反対に生産年齢人口は3.9ポイント、老年人口シェアは13.2ポイント拡大し、それぞれ64.9%、20.2%となっている。

(d) まとめ

以上で記述した蒜山地域、真庭郡及び岡山県における年齢3区分別人口割合の昭和30

年～平成12年間に於ける推移状況をまとめると以下のようである。

年少人口及び生産年齢人口の各シェアは経年的に縮小パターンで推移し、反対に老年人口シェアは拡大パターンで推移している。以上の推移経過のもとで、それぞれの人口シェアの概数（小数点位四捨五入）を昭和30年と平成12年の両時点で比較的に記述すると以下のようである。

年少人口シェアは、昭和30年に蒜山地域と真庭郡は34%、岡山県は32%の順となり、平成12年には岡山県15%、真庭郡14%、蒜山地域13%の順となっている。生産年齢人口は、昭和35年に岡山県61%、蒜山地域と真庭郡各59%の順となり、平成12年には岡山県65%、真庭郡57%、蒜山地域55%の順となっている。老年人口は、昭和30年に蒜山地域、真庭郡、岡山県ともに7%、平成12年には蒜山地域32%、真庭郡29%、岡山県20%の順となっている。

以上のように、蒜山地域は平成12年の時点において真庭郡及び岡山県と比べて年少人口シェアと生産年齢人口シェアは低く、老年人口シェアは高くなっている。

(2) 4か町村

各町村における年齢3区分別人口割合は表8によると以下のとおりである。

(a) 年少人口シェア

昭和30年に川上村33.1%、八束村34.3%、中和村34.0%、湯原町は34.2%となっている。

同年以降、4か町村の年少人口シェアは縮小を続け、その過程において川上村は昭和40年に20%台、同50年に19%台、平成2年に18%台、その後は13%台となっている。八束村は昭和40年に20%台、平成2年に19%台、同7年に17%台、その後は14%台となっている。中和村は昭和40年に20%台、平成2年に18%台、同7年に12%台、その後は8%台となっている。湯原町は昭和40年に20%台、その後5年ごとに19%台、18%台、17%台と下降し、平成2年に15%台、同7年に12%台、その後は11%台となっている。

以上の推移経過のもとで、昭和30年に対し平成12年に川上村は19.2ポイント、八束村は20.2ポイント、中和村は25.3ポイント、湯原町は23.0ポイント縮小し、それぞれ13.9%、14.1%、8.7%、11.2%となっている。

(b) 生産年齢人口シェア

昭和30年に川上村59.2%、八束村58.3%、中和村59.1%、湯原町58.9%となっている。

同年以降、生産年齢人口シェアは拡大を続け、各町村とも昭和40年に60%台に乗り、その後60%台を乱高下し、八束村は平成2年以降、一方、川上村、中和村、湯原町は同7年以降50%台で推移している。以上の推移経過のもとで、昭和30年に対し平成12年には川上村は2.6ポイント、八束村は2.5ポイント、中和村は3.2ポイント、湯原町は6.0ポイント拡大し、それぞれ56.6%、55.8%、55.9%、52.9%となっている。

(c) 老年人口シェア

昭和30年に川上村7.7%、八束村7.4%、中和村と湯原町は6.9%となっている。

同年以降、各町村の老年人口シェアは拡大を続け、川上村は昭和35年に8%台、同40年に10%台に達し、その後は10%台を上昇し、平成2年以降は20%台を上昇している。八束村は昭和40年に9%台に達し、同45年以降は10%台を上昇し、平成2年以降は20%台を上昇し、同12年には30%台に達している。中和村は昭和40年に9%台となり、同45年以降は10%台を上昇し、平成2年に20%台に達し、同7年以降は30%台を上昇している。湯原町は昭和40年以降10%台を上昇し、同60年に20%台に乗り、平成7年以降は30%台を上昇している。

以上の推移経過のもとで、昭和30年に対し平成12年に川上村は21.8ポイント、八束村は22.7ポイント、中和村は28.50ポイント、湯原町は29.0ポイント拡大し、それぞれ29.5%、30.1%、35.4%、35.9%となっている。なお、老年人口が年少人口を上回った時点は湯原町は昭和60年、他の3か村は平成2年となっている。

(d) まとめ

以上で記述した4か町村の昭和30年～平成12年間における年齢3区分別人口シェアの推移状況は、年少人口シェアと生産年齢人口シェアはともに縮小パターンで推移し、反対に老年人口シェアは拡大パターンで推移している。以上の推移経過のもとで、昭和30年と平成12年の両時点における各人口シェアの概数（小数点以下四捨五入）を列記すると以下のとおりである。

年少人口シェアは、昭和30年に八束村、中和村及び湯原町各34%、川上村33%の順となり、平成12年に川上村と八束村各14%、湯原町11%、中和村9%の順となっている。

生産年齢人口シェアは、昭和30年に川上村、中和村及び湯原町各59%、八束村58%の順となり、平成12年に川上村57%、八束村と中和村各56%、湯原町53%の順となっている。

老年人口シェアは、昭和30年に川上村8%、八束村、中和村及び湯原町各7%の順となり、平成12年に湯原町36%、中和村35%、川上村と八束村各30%の順となっている。

以上で記述したように、昭和30年における年少人口シェア、生産年齢人口シェア及び老年人口シェアは4か町村間に差はみられない。しかし、平成12年の時点では、各人口シェアに町村間差異が認められ、全体的に川上村と八束村、中和村と湯原町はそれぞれ近接している。

すなわち、年少人口シェアは川上村と八束村が中和村と湯原町を上回り、老年人口シェアは川上村と八束村が中和村と湯原町を下回っている。ただ、生産年齢人口シェアは川上村が湯原町を上回り、八束村と中和村は同一水準となっている。

第4項 年齢構造指数の推移

人口の年齢構造の特徴を表す指標として、年少人口指数（生産年齢人口に対する年少人口の比率）、老年人口指数（生産年齢人口に対する老年人口の比率）、従属人口指数（生産年齢人口に対する年少人口と老年人口の総和の比率）、老年化指数（年少人口に対する老年人口の比率）が列挙される。なお、老年化指数は、人口の高齢化の程度の進行状況をより敏感に示す指標とされている。

これら指数の昭和30年～平成12年間における5年刻みの時系列的推移を示すと表9のとおりである。

（1） 蒜山地域、真庭郡及び岡山県

（a） 蒜山地域

年少人口指数は、昭和30年に57.7となり、その後急速に低下し、同50年に30.9となり、その後、同60年まで横ばい状態で推移し、平成2年に29.2と僅かに低下し、その後も低下を続け、同12年に22.9と最低を記録している。

老年人口指数は、昭和30年に12.3となり、その後は一貫して上昇を続け、同45年以降は20台を上昇し、平成2年に30台に達し、35.5となり、同7年には49.4と40台に乗り、同12年に59.1と最高を記録している。

従属人口指数は、昭和30年に70.0となり、その後は低下を続け、同50年に53.1と最低を記録し、その後は上昇に転じ、同60年に60.4と60台に乗り、平成7年に70台に達し、同12年に82.0と最高を記録している。

老年化指数は、昭和30年に21.3となり、その後は急速に上昇を続け、同40年に36.7、同50年に71.9、同60年に98.4、平成7年に187.5となり、同12年に258.3と最高を記録している。

（b） 真庭郡

年少人口指数は、昭和30年に57.0となり、蒜山地域を0.7ポイント下回っている。同年以降における同指数の推移パターンは蒜山地域の場合と類似し、平成12年に25.0となり、蒜山地域を2.1ポイント上回っている。なお、上記した推移経過において、真庭郡は昭和30～50年に蒜山地域を0.3～2.4ポイントの範囲で下回り、その後の期間は0.2～2.1ポイントの範囲で上回り、その最大較差は昭和40年の2.4ポイント、最小は平

成2年の0.2ポイントとなっている。

老年人口指数は、昭和30年に12.3となり、蒜山地域と同一水準を示し、同年以降における同人口指数は蒜山地域と類似の上昇パターンで推移し、平成12年に51.7となり、蒜山地域を7.4下回っている。なお、上記した推移経過において、真庭郡は昭和40～45年及び同60年以降において蒜山地域を0.1～7.4ポイントの範囲で下回り、特にその較差は平成7年以降5.9～7.4ポイントの範囲に拡大している。一方、昭和35年と同50～55年に蒜山地域を0.2～0.8ポイントの範囲で上回っている。

従属人口指数は、昭和30年に69.3となり、蒜山地域を0.7ポイント下回り、同年以降は蒜山地域と類似の上昇パターンで推移し、平成12年に76.7となり、蒜山地域を3.3ポイント下回っている。なお、上記した推移経過において、昭和60年に蒜山地域と同水準となり、他の時点では0.2～4.9ポイントの範囲で下回り、その較差は特に平成7年以降において3.3～4.9ポイントと拡大している。

老年化指数は、昭和30年に21.5となり、蒜山地域を0.2ポイント上回り、同年以降は蒜山地域と類似の上昇パターンで推移し、平成12年に207.0となり、蒜山地域を51.3ポイント下回っている。なお、上記した推移経過において、昭和30～50年は蒜山地域を0.2～2.3ポイントの範囲で上回り、反対に同55年～平成12年は0.5～51.3ポイントの範囲で下回り、特に同7年以降は28.6～51.3ポイントの範囲に拡大している。

(c) 岡山県

年少人口指数は、昭和30年に52.4となり、蒜山地域を5.3ポイント下回っている。同年以降における同指数の推移パターンは蒜山地域の場合と類似し、平成12年に23.0となり、蒜山地域を0.1ポイント上回っている。なお、上記した推移経過において、岡山県は昭和30～45年及び平成2年以降において蒜山地域をそれぞれ2.1～9.5ポイント、0.1～2.2ポイントの範囲で下回り、反対に昭和50～60年は1.9～4.3ポイントの範囲で上回り、その最大較差は昭和35年の9.5ポイント、最小較差は平成12年の0.1ポイントとなっている。

老年人口指数は、昭和30年に11.4となり、蒜山地域を0.9ポイント下回り、その後は蒜山地域の場合と類似の上昇パターンで推移し、平成12年に31.1となり、蒜山地域を28.0ポイント下回っている。なお、上記の推移経過において、岡山県は昭和30年～平成12年に0.9～20.6ポイントの範囲で下回っているが、その較差は時系列的に拡大し、特に平成2年以降は11.7～20.6ポイントの範囲を上昇している。

従属人口指数は、昭和30年に63.8となり、蒜山地域を6.2ポイント下回っている。同年以降、同指数は昭和45年まで蒜山地域と類似の下降パターンで推移し、同年に47.7と最低を記録し、同50年に50.7と上昇し、その後は概ね横ばいのパターンに転じ、平成12年には幾分上昇し、54.1となり、蒜山地域を27.9ポイント下回っている。なお、上記した推移経過において、昭和30年～平成12年に蒜山地域を2.3～27.9ポイントの範囲で下回り、その較差は時系列的に拡大し、特に平成2年以降の較差は10ポイント以上となり、15.0～27.9ポイントの範囲を上昇している。

老年化指数は、昭和30年に20.7となり、蒜山地域を0.6ポイント下回っている。同年以降、同指数は蒜山地域と類似の上昇パターンで推移しているが、その上昇速度はかなり緩やかとなり、昭和40年に36.1、同50年に46.4、同60年に61.0、平成7年に107.4、そして同12年には135.1となっている。上記した推移経過において、岡山県は昭和30～35年に蒜山地域を0.6～2.2ポイントの範囲で上回り、反対に同40年～平成12年は13.8～123.2ポイントの範囲で下回り、その較差は時系列的に拡大し、特に平成年代において40.8～123.2ポイントの範囲を上昇している。

(d) まとめ

昭和30年～平成12年間に年少人口指数は下降パターンで推移し、反対に老年人口指数、従属人口指数及び老年化指数は上昇パターンで推移している。そのような推移状況のもとで昭和30年と平成12年の両時点における蒜山地域、真庭郡及び岡山県の年齢構造指数の概数（小数点以下四捨五入）を列記すると以下のとおりである。

年少人口指数は、昭和30年に蒜山地域58、真庭郡57、岡山県52の順となり、平

成12年には真庭郡25、蒜山地域と岡山県各23の順となっている。

老年人口指数は、昭和30年に蒜山地域と真庭郡各12、岡山県11の順となり、平成12年には蒜山地域59、真庭郡52、岡山県31の順となっている。

従属人口指数は、昭和30年に蒜山地域70、真庭郡69、岡山県64の順となり、平成12年には蒜山地域82、真庭郡77、岡山県54の順となっている。

老年化指数は、昭和30年に真庭郡22、蒜山地域と岡山県各21の順となり、平成12年には蒜山地域258、真庭郡207、岡山県135の順となっている。

以上で記述したように、蒜山地域の年少人口指数は昭和30年の時点では真庭郡と大差なく、岡山県を6ポイント上回っている。平成12年に同指数は3地域とも著しく低下し、相互に近接している。

老年人口指数は、昭和30年の時点で3地域間に大差なく、平成12年には3地域とも著しく上昇し、蒜山地域は真庭郡を7ポイント、岡山県を28ポイントも上回り、3地域のなかで岡山県は著しく低い。

従属人口指数は、昭和30年に蒜山地域と真庭郡は近接し、岡山県を5～6ポイント上回っているが、平成12年には蒜山地域と真庭郡は上昇し、岡山県は低下し、3地域間の較差は拡大し、蒜山地域は真庭郡を5ポイント、岡山県を28ポイントも上回り、3地域のなかで岡山県は特に低い。

老年化指数は、昭和30年に3地域間には大差はみられない。しかし、平成12年の時点では3地域とも極めて著しく上昇し、蒜山地域は真庭郡を51ポイント、岡山県を123ポイント上回り、蒜山地域の高齢化の程度は真庭郡のレベルを超えて顕著に進行している。

(4) 4か町村

各町村における年齢構造指数の推移を表9により記すと以下のようである。

(a) 年少人口指数

昭和30年に八束村は最高の58.9を示し、次いで湯原町58.0、中和村57.5、川上村56.0の順となっている。

同年以降、各町村とも年少人口指数は下降パターンで推移している。その推移過程において川上村と中和村は昭和50年にそれぞれ28.9、31.7と下降し、平成2年まで概ね横ばい状態で推移し、両村とも30.3となり、その後川上村は比較的緩やかに、中和村は急速に下降している。一方、八束村は昭和55年に31.9と下降し、その後は比較的横ばい状態で推移し、平成7年に30.0となり、同12年に急下降している。湯原町は昭和60年まで一貫して低下し、同年に20.4となり、その後は上昇に転じ、平成2年に25.4となり、その後は緩やかな低下となっている。

以上の推移経過のもとで、昭和30年に対し平成12年に八束村は33.5ポイント低下の25.4、川上村は31.5ポイント低下の24.5、湯原町は36.8ポイント低下の21.2、中和村は41.9ポイント低下の15.6となっている。

以上で記述したように、4か町村の年少人口指数は昭和30年には互いに近接し、その後の下降過程においても同45年までは近接状態が続き、同50年以降において町村間較差の拡大化が起こっている。

(b) 老年人口指数

昭和30年に川上村は13.1と最も高く、次いで八束村12.7、湯原町11.8、中和村11.6の順となっている。

同年以降、各町村の老年人口指数は上昇パターンで推移し、川上村、中和村、湯原町は昭和45年、八束村は同50年に20台に達し、その後湯原町は同60年、他の3か村は平成2年に30台に乗り、平成7年に川上村と八束村は40台、中和村と湯原町は50台に達し、その後さらに上昇している。

以上の推移経過のもとで、昭和30年に対し平成12年に湯原町は56.2ポイント上昇の68.0、中和村は51.6ポイント上昇の63.2、八束村は41.3ポイント上昇の54.0、川上村は39.0ポイント上昇の52.1となっている。

上記したように老年人口指数は平成12年の時点で、川上村と八束村の50台、中和村

と湯原町の60台という高低の2極化がみられるが、その現象は平成7年から始まっている。

(c) 従属人口指数

昭和30年に八束村が最高の71.5、次いで川上村と中和村各69.1、湯原町67.5の順となっている。

同年以降、各町村の従属人口指数は当初は下降パターンで推移し、その後上昇パターンに転じている。すなわち、八束村は昭和45年に54.6、川上村、中和村、湯原町は同50年にそれぞれ50.1、55.1、53.2と最低を記録し、その後八束村と湯原町は同60年に、川上村と中和村は平成2年に60台に達し、その後各町村とも同7年に70台に乗り、その後川上村と中和村は横ばい状態となり、八束村は幾分上昇し、湯原町は急速に上昇している。

以上の推移経過のもとで、昭和30年に対し平成12年に湯原町は21.7ポイント上昇の89.2、八束村は7.9ポイント上昇の79.4、中和村は9.7ポイント上昇の78.8、川上村は7.5ポイント上昇の76.6となっている。

上記したように各町村の従属人口指数は、昭和30年には比較的近接し、その後の推移過程においても全体的にはかなり近接し、平成12年の時点では湯原町が突出し、他の3か村は近接している。

(d) 老年化指数

昭和30年に川上村は最高の23.4、次いで八束村21.5、湯原町20.4、中和村20.1の順となっている。

同年以降、各町村の老年化指数は時系列的に上昇パターンで推移し、その推移過程において各町村は昭和40年に30台に達し、同45年に川上村と湯原町は60台、中和村は50台、八束村は40台に乗り、同55年に湯原町は90台、川上村は80台、八束村と中和村は70台、同60年に湯原町は100台に乗り、他の3か村は平成2年に100台に達し、その後中和村と湯原町は平成7年に200台に乗り、さらに上昇し、川上村と八束村は同12年に200台に達している。

以上の推移経過のもとで、昭和30年に対し平成12年に中和村は384.1ポイント上昇の404.2、湯原町は300.9ポイント上昇の321.3、八束村は191.5ポイント上昇の213.0、川上村は189.3ポイント上昇の212.7となっている。

上記のように老年化指数は平成7年以降において川上村と八束村、中和村と湯原町のそれぞれ低水準と高水準の2極化がみられる。

(e) まとめ

以上で記述した年齢構造指数及び老年化指数は昭和30年～平成12年間に年少人口指数は時系列的に下降パターンで推移し、反対に老年人口指数、従属人口指数及び老年化指数は上昇パターンで推移している。

以上の推移経過を踏まえ、昭和30年と平成12年の両時点における各指数の概数（小数点以下四捨五入）を列記すると次のとおりである。

年少人口指数は、昭和30年に八束村59、中和村と湯原町各58、川上村56の順となり、平成12年には川上村と八束村各25、湯原町21、中和村16の順となっている。

老年人口指数は、昭和30年に川上村と八束村各13、中和村と湯原町各12の順となり、平成12年には湯原町68、中和村63、八束村54、川上村52の順となっている。

従属人口指数は、昭和30年に八束村72、川上村と中和村各69、湯原町68の順となり、平成12年には湯原町89、八束村と中和村各79、川上村77の順となっている。

老年化指数は、昭和30年に川上村23、八束村22、中和村と湯原町各20の順となり、平成12年には中和村404、湯原町321、川上村と八束村はともに213となっている。

上記のように、平成12年における老年化指数は中和村と湯原町は高く、八束村と川上村は低く、蒜山地域4か町村の人口の高齢化の程度の進行状況には2極化の傾向がうかがえる。

第3節 労働力人口の推移

15歳以上人口及び労働力人口の昭和30年～平成12年間における5年刻みの推移状況を表10～14に基づいて記述すると以下のとおりである。なお、比較のため真庭郡及び岡山県と同資料を付記している。

第1項 15歳以上人口の推移

(1) 蒜山地域、真庭郡及び岡山県

表10によると、蒜山地域における15歳以上人口は昭和30年に11,162人を数え、平成12年には24.3%減の8,448人となっている。真庭郡の場合、昭和30年に48,835人を数え、平成12年には13.0%減の42,477人となっている。一方、岡山県は昭和30年に1,149,383人を数え、平成12年には44.3%増加の1,658,780人となっている。

上記した蒜山地域の15歳以上人口の真庭郡及び岡山県に占める割合（対真庭郡比及び対岡山県比）をみると、対真庭郡比は昭和30年に22.9%となり、その後緩やかな低下基調で推移し、平成12年に19.9%となっている。一方、対岡山県比は昭和30年に0.97%となり、その後急速に低下し、平成12年に0.51%となっている。

以上で記述した15歳以上人口の昭和30年～平成12年間における推移状況をまとめると、蒜山地域と真庭郡は時系列的に減少パターンで推移し、反対に岡山県は増加パターンで推移し、その減少率の概数（小数点以下四捨五入）は蒜山地域24%、真庭郡13%となり、蒜山地域の方が著しく高い。一方、岡山県の増加率は44%と極めて高水準となっている。

蒜山地域の15歳以上人口の対真庭郡比及び対岡山県比の推移動向から、同地域の真庭郡及び岡山県に占める地位は時系列的に低下し、特に後者において顕著となっている。

(2) 4か町村

表10によると、昭和30年における15歳以上人口は湯原町4,760人（構成割合42.6%）、八束村2,900人（同26.0%）、川上村2,422人（同21.7%）、中和村1,080人（同9.7%）の順となっている。

同年以降、各町村の15歳以上人口は減少パターンで推移し、平成12年に湯原町は35.8%減の3,056人（同36.1%）、八束村は11.4%減の2,568人（同30.4%）、川上村は13.6%減の2,093人（同24.8%）、中和村は32.3%減の731人（同8.7%）という順になっている。一方、同人口の町村別構成割合は昭和30年の時点に対し川上村と八束村は構成割合をそれぞれ3.1、4.4ポイント拡大し、中和村と湯原町はそれぞれ1.0、6.5ポイント縮小している。

上述した4か町村における15歳以上人口の推移状況をまとめると、各町村とも経年的に減少パターンで推移し、同人口の昭和30年と平成12年間における減少率の概数（小数点以下四捨五入）は、湯原町36%、中和村32%、川上村14%、八束村11%の順となり、同人口の減少の程度によって、4か町村は湯原町及び中和村の急速減少グループと川上村及び八束村の緩やか減少グループに区分される。

第2項 労働力人口の推移

前述の15歳以上人口は労働力人口と非労働力人口の総和であり、その労働力とは国勢調査週問中「主に仕事」、「家事などのほか仕事」、「通学のかたわら仕事」の就業者及び「仕事を休んでいた」か「仕事を探していた」休業者と完全失業者を含む。一方、非労働力とは収入になる仕事を少しもしなかった人のうち、休業者及び完全失業者以外の人で、「主に炊事や育児など家事」、「通学」、「その他（高齢など）」が該当する。

(1) 蒜山地域

蒜山地域、真庭郡及び岡山県の労働力人口の推移を表10と11に基づき記述すると以下のようである。

(a) 労働力人口総数

蒜山地域における労働力人口総数（男女）は、昭和30年に9,095人を数え、同35年

に8,823人となり、同40年には7,847人と減少し、その後は7千人台を下降し、同60年に6,799人となり、平成7年まで6千人台を下降し、同12年に5,415人と最低を記録している。

真庭郡における労働力人口総数は、昭和30年に37,390人を数え、その後は3万人台を下降し、平成2年に29,567人となり、その後は2万人台を下降し、平成12年に26,444人と最低の達している。

岡山県における労働力人口総数は、昭和30年に807,461人を数え、昭和40年まで80万人台を上昇し、同45年に941,711人と増加し、その後は90万人台を上昇し、平成7年には100万人台に達し、1,027,927人と最高を記録し、同12年には998,181人となっている。

上記した労働力人口総数の昭和35年～平成12年間における増減率を表12でみると、蒜山地域と真庭郡の減少率はそれぞれ40.5%、29.3%、反対に岡山県の増加率は23.7%となっている。

上記期間中の5年刻みの増減率をみると、蒜山地域は大半が△5%以下となり、昭和35～40年と平成7～12年は△10%程度に突出している。

一方、真庭郡の場合、昭和50～55年は1%以下の増加となり、他の期間は概ね5%以下の減少となっている。また、岡山県の場合は昭和45～50年と平成7～12年は2%前後の減少となり、他の期間は5%以下の増加となり、ただ昭和40～45年は9%と幾分突出している。

国勢調査報告によると、わが国の労働力人口総数は、高度経済成長期の昭和30年代から同40年代前半まで、5年間の増加率は9～10%と高い伸びを続け、同45～50年には2%に低下し、その後は平成7年まで5%台を上昇し、同7～12年には初めて1%台の減少となっている。以上の推移状況は蒜山地域及び真庭郡の減少と対照的であるが、岡山県レベルの場合は増加率は低いものの全国レベルの推移状況と類似している。

以上で記述した蒜山地域における労働力人口総数の真庭郡及び岡山県に占める割合（対真庭郡比及び対岡山県比）を表10でみると、対真庭郡比は昭和30年に24.3%となり、その後は緩やかに低下し、平成12年に20.5%となっている。一方、対岡山県比は昭和30年に1.13%となり、その後は比較的急速に低下し、平成12年に0.54%と最低に達している。上記の平成12年における対真庭郡比及び対岡山県比は既述した15歳以上人口の対真庭郡比及び対岡山県比に近似している。

(b) 男女別労働力人口

蒜山地域における男子労働力人口は、昭和30年に5,024人を数え、同35年に4千人台となり、同45年以降は3千人台を下降し、平成12年に2,949人となっている。一方、女子労働力人口は、昭和30年に4,071人を数え、同40年以降3千人台を下降し、平成2年に2千人台に乗り、その後2千人台を下降し、同12年に2,466人となっている。以上の男女別労働力人口の昭和35年～平成12年間における減少率は、男子は41.3%、女子は39.4%となっている。

真庭郡における男子労働力人口は、昭和30年に20,889人を数え、平成12年には14,875人と減少し、その減少率は28.8%となっている。一方、女子労働力人口は、昭和30年に16,501人を数え、平成12年には11,569人と減少し、その減少率は29.9%となっている。

岡山県における男子労働力人口は、昭和30年に463,107人を数え、平成12年には579,066人と増加し、その増加率は25.0%となっている。一方、女子労働力人口は、昭和30年に344,354人を数え、平成12年に419,715人と増加し、その増加率は21.9%となっている。

以上で記述した蒜山地域の男子労働力人口の対真庭郡比は、昭和30年に24.1%となり、その後は緩やかな低下を続け、平成12年に19.8%と最低に達している。一方、対岡山県比は昭和30年に1.08%となり、その後は急速な下降を続け、平成12年に0.51%と最低を記録している。

女子労働力人口の対真庭郡比は、昭和30年に24.6%となり、その後は緩やかな低下を

続け、平成12年に21.3%と最低に達している。一方、対岡山県比は昭和30年に1.18%となり、その後は急速な低下を続け、平成12年に0.59%と最低を記録している。

(d) まとめ

蒜山地域における労働力人口総数（男子と女子）の昭和30年～平成12年間における推移状況を真庭郡及び岡山県と比較すると、蒜山地域と真庭郡は減少パターンで推移し、岡山県は増加パターンで推移している。

上記の推移経過のもとで、昭和30年と平成12年間における労働力人口総数の減少率の概数（小数点以下四捨五入）は、蒜山地域41%、真庭郡29%となり、反対に岡山県の増加率は24%となっている。

以上の増減率を男女別にみると、男子労働力の減少率の概数は、蒜山地域41%、真庭郡29%、反対に岡山県の増加率は25%となっている。一方、女子労働力人口の減少率の概数は、蒜山地域39%、真庭郡30%、反対に岡山県の増加率は22%となっている。

次に蒜山地域における労働力人口の対真庭郡比と対岡山県比の昭和30年→平成12年の時系列推移には次のような著しい低下が起こっている。

対真庭郡比は、男女総数は24.3%→20.5%、男子は24.1%→19.8%、女子は24.6%→21.3%となり、3～4ポイント低下している。一方、対岡山県比は、男女総数は1.13%→0.54%、男子は1.08%→0.51%、女子は1.18%→0.59%となり、それぞれ0.59ポイント程度低下している。

以上のように蒜山地域における労働力人口の真庭郡及び岡山県に占める地位は経年的に低下し、その傾向は特に後者において顕著となっている。

(2) 4か町村

4か町村の労働力人口の推移を表10、11により記述すると以下のようである。

(a) 労働力人口総数

昭和30年における労働力人口総数（男女）は川上村2,050人、八束村2,408人、中和村933人、湯原町3,704人となっている。同年以降、各町村の同人口総数は減少が続き、昭和30年に対し平成12年に川上村は32.6%減の1,381人、八束村は29.1%減の1,708人、中和村は49.7%減の469人、湯原町は49.9%減の1,857人となっている。以上で記述した各町村の労働力人口総数の昭和30年以降における5年ごとの増減の推移を表12でみると以下のようである。

川上村は昭和50～55年及び同60年～平成2年に1～2%の増加となり、その後は減少し、その減少率は大半が5%以下となっているが、昭和35～40年に15%と突出している。八束村は昭和50～55年に3%の増加となり、その後は減少し、その減少率は概ね5%以下となり、同45～50年に9%と突出している。中和村は全期間で減少し、その減少率は大半が5～10%で、昭和35～40年に14%と突出している。湯原町は全期間で減少し、その減少率は大半が3～6%となり、昭和35～40年、平成2～7年、同7～12年は11～16%と突出している。

上記した労働力人口総数の町村別構成割合をみると、昭和30年に湯原町40.7%、八束村26.5%、川上村22.5%、中和村10.3%の順となっている。平成12年には湯原町は6.4ポイント縮小の34.3%、八束村は5.0ポイント拡大の31.5%、川上村は3.0ポイント拡大の25.5%、中和村は1.6ポイント縮小の8.7%という順になっている。以上の平成12年における町村別シェアの町村間順位は昭和30年の時点と変わらない。しかし、前述した労働力人口総数の昭和30年～平成12年間における減少率の高低を反映し、その減少率の高い湯原町と中和村は同シェアを著しく縮小し、反対にその減少率の特に低い八束村は同シェアを著しく拡大している。

(b) 男女別労働力人口

男子労働力人口は、昭和30年に川上村は1,112人、八束村は1,277人、中和村は498人、湯原町は2,137人となっている。

同年以降、各町村とも同人口は減少し、昭和30年に対し平成12年に川上村は32.7%減の748人、八束村は28.2%減の917人、中和村は45.2%減の273人、湯原町は52.7%減の1,011人となっている。

女子労働力人口は、昭和30年に川上村938人、八束村1,131人、中和村435人、湯原町1,567人となっている。

同年以降、各町村とも同人口は減少し、昭和30年に対し平成12年に川上村は32.5%減の633人、八束村は30.1%減の791人、中和村は54.9%減の196人、湯原町は46.0%減の846人となっている。

(c) まとめ

4か町村の労働力人口（男女総数、男子、女子）は昭和30年以降経年的に減少パターンで推移している。その推移経過を踏まえ、同人口の昭和30年と平成12年の両時点間における減少率の概数（小数点以下四捨五入）を記すと次のとおりである。

労働力人口総数は中和村と湯原町はともに50%、川上村は33%、八束村は29%の順となっている。男子は湯原町53%、中和村45%、川上村33%、八束村28%の順となり、女子は中和村55%、湯原町46%、川上村33%、八束村30%の順となっている。

以上のように労働力人口の減少率は全体的に川上村と八束村は概ね30%前後、中和村と湯原町は概ね50%前後となり、4か町村は労働力人口減少の程度によって2分される。

第3項 労働力率の推移

蒜山地域、真庭郡及び岡山県の労働力率（15歳以上人口に占める労働力人口の割合）の推移は表10で示すとおりである。

(1) 蒜山地域

蒜山地域における労働力率をみると、昭和30年の男女総数の労働力率は81.5%、そのうち男子は90.9%、女子は72.2%となっている。

同年以降、労働力率は時系列的に低下パターンで推移している。すなわち、男女総数の労働力率は昭和40年以降70%台を下降し、平成12年には急落し、64.1%と最低に達している。男子労働力率は昭和40年以降80%台を下降し、平成7年に70%台となり、同12年に73.8%と最低に達している。一方、女子労働力率は昭和50年以降60%台を下降し、平成12年に55.4%と最低を記録している。

真庭郡における昭和30年の男女総数の労働力率は76.6%、男子は88.2%、女子は65.6%となっている。これら労働力率は経年的に低下し、平成12年には男女総数の労働力率は62.3%、男子は74.5%、女子は51.4%といずれも最低に達している。

岡山県における昭和30年の男女総数の労働力率は70.3%、男子は85.6%、女子は56.6%となっている。これら労働力率は経年的に低下し、平成12年には男女総数の労働力率は60.2%、男子は73.6%、女子は48.1%と最低に達している。

以上で記述した蒜山地域の労働力人口（男女総数、男子、女子）の労働力率の推移状況を真庭郡及び岡山県の場合と対比しながら要約すると次のようである。

蒜山地域、真庭郡、岡山県の労働力率は昭和30年～平成12年の間に低下パターンで推移している。その推移経過のもとで昭和30年と平成12年の両時点における3地域の労働力率の概数（小数点以下四捨五入）を示すと以下のようである。

男女総数の労働力率は昭和30年に蒜山地域82%、真庭郡77%、岡山県70%の順となり、平成12年には蒜山地域64%、真庭郡62%、岡山県60%の順となっている。

男子の労働力率は昭和30年に蒜山地域91%、真庭郡88%、岡山県86%の順となり、平成12年には真庭郡75%、蒜山地域と岡山県各74%の順となっている。一方、女子の労働力率は昭和30年に蒜山地域72%、真庭郡66%、岡山県57%の順となり、平成12年には蒜山地域55%、真庭郡51%、岡山県48%の順となっている。

以上で記述したように男女総数、男子、女子の労働力率は両時点において全体的に蒜山地域が高く、次いで真庭郡、岡山県の順となっている。また、労働力率の3地域間の較差は男女総数及び男子の場合は平成12年の時点で縮小しているが、女子の場合その較差は大きい。3地域とも男子の労働力率は女子と比べて非常に高くなっている。

(2) 4か町村

4か町村の労働力率の推移状況を表10より記述すると以下のようである。

男女総数の労働力率は、昭和30年に川上村84.6%、八束村83.0%、中和村86.4%、湯原町77.8%となり、同年以降、各町村とも低下を続け、平成12年に川上村は18.6ポイント低下の66.0%、八束村は16.5ポイント低下の66.5%、中和村は22.2ポイント低下の64.2%、湯原町は17.0ポイント低下の60.8%となっている。

男子の労働力率は、昭和30年に川上村87.1%、八束村91.2%、中和村91.7%、湯原町90.8%となり、平成12年に川上村は13.8ポイント低下の73.3%、八束村は15.2ポイント低下の76.0%、中和村は14.4ポイント低下の77.3%、湯原町は19.5ポイント低下の71.3%となっている。

女子の労働力率は、昭和30年に川上村78.5%、八束村75.4%、中和村81.0%、湯原町65.1%となり、平成12年に川上村は19.5ポイント低下の59.0%、八束村は17.3ポイント低下の58.1%、中和村は29.1ポイント低下の51.9%、湯原町は17.5ポイント低下の57.6%となっている。

以上で記述したように4か町村における労働力率は昭和30年と平成12年間に低下し、それぞれの労働力率の概数（小数点以下四捨五入）を記すと以下のとおりである。

男女総数は昭和30年に中和村86%、川上村85%、八束村83%、湯原町78%の順となり、平成12年には八束村67%、川上村66%、中和村64%、湯原町61%の順となっている。

男子は昭和30年に中和村92%、八束村と湯原町各91%、川上村87%の順となり、平成12年には中和村77%、八束村76%、川上村73%、湯原町71%の順となっている。一方、女子は昭和30年に中和村81%、川上村79%、八束村75%、湯原町65%の順となり、平成12年には川上村59%、八束村と湯原町各58%、中和村52%の順となっている。

以上のように男子と女子の労働力率は、各町村とも両時点において男子の方が高く、その平均較差は昭和30年の時点で15ポイント、平成12年の時点では18ポイントとなっている。

第4項 労働力人口の年齢

労働力人口の年齢構成を15～64歳と65歳以上の2階層に分け、統計資料の都合により、その階層別人口及び階層別割合の昭和55年～平成12年間ににおける5年刻みの推移状況を示す。ちなみに15～64歳階層は前節で記述した総人口の年齢3区分別人口のうち生産年齢人口、65歳以上階層は老年人口に当たる。

1 年齢階層別労働力人口の推移

蒜山地域、真庭郡及び岡山県の年齢階層別労働力人口の推移を表13により記述すると以下のようである。

蒜山地域の昭和55年における労働力人口総数（男女）の15～64歳階層は6,219人、65歳以上階層は857人となり、男女別にみると、15～64歳階層の男子は3,230人、女子は2,989人、65歳以上階層の男子は477人、女子は380人となっている。

同年以降、15～64歳階層は減少パターンで推移し、昭和30年に対し平成12年に男女総数は31.4%減の4,269人、男子は20.1%減の2,323人、女子は34.9%減の1,946人となっている。一方、65歳以上階層は増加パターンで推移し、平成12年に男女総数は33.7%増の1,146人、男子は31.2%増の626人、女子は36.8%増の520人となっている。

真庭郡の場合、昭和55年における男女総数の15～64歳階層は28,265人、65歳以上階層は3,523人となっている。男女別にみると、15～64歳階層の男子は15,049人、女子は13,216人、65歳以上階層の男子は2,109人、女子は1,414人となっている。

同年以降、15～64歳階層は減少パターンで推移し、昭和30年に対し平成12年に男女総数は22.8%減の21,819人、男子は19.2%減の12,167人、女子は26.7%減の9,686人となっている。一方、65歳以上階層は増加パターンで推移し、平成12年に男女総数は31.3%増の4,625人、男子は28.4%増の2,708人、女子は33.2%増の1,883人となっている。

岡山県の場合、昭和55年における男女総数の15～64歳階層は871,861人、65歳以上階層は74,141人となっている。男女別にみると、15～64歳階層の男子は515,730人、女子は356,131人、65歳以上階層の男子は46,963人、女子は27,178人となっている。

同年以降、15～64歳階層は増加パターンで推移し、昭和30年に対し平成12年に男女総数は3.5%増の903,106人、男子は0.9%増の520,267人、女子は7.5%増の382,939人となっている。他方、65歳以上階層も増加パターンで推移し、平成12年に男女総数は29.0%増の95,675人、男子は25.2%増の58,799人、女子は35.3%増の36,776人となっている。

以上で記述した蒜山地域の昭和55年と平成12年間における労働力人口の推移状況を真庭郡及び岡山県と対比しながら要約すると以下のようである。

①15～64歳階層の労働力人口は蒜山地域と真庭郡では減少パターンで推移し、反対に岡山県は増加パターンで推移して、その増減率の概数（小数点以下四捨五入）は次のとおりである。

男女総数は蒜山地域31%、真庭郡23%の減少となり、反対に岡山県は4%の増加となっている。男子の減少率は蒜山地域28%、真庭郡19%の順となり、岡山県の増加率は1%となっている。女子の減少率は蒜山地域35%、真庭郡27%の順となり、岡山県の増加率は8%となっている。

②65歳以上階層の労働力人口は3地域とも増加パターンで推移し、その増加率の概数は以下のとおりである。

男女総数は蒜山地域34%、真庭郡31%、岡山県29%、男子は蒜山地域31%、真庭郡28%、岡山県25%、女子は岡山県36%、真庭郡33%、蒜山地域22%の順となっている。

③蒜山地域における労働力人口の対真庭郡比及び対岡山県比を昭和55年→平成12年の時系列で記す以下のとおりである。

対真庭郡比の場合、15～64歳階層の男女総数は22.0%→19.6%、男子は21.5%→19.1%、女子は22.6%→20.1%となっている。一方、65歳以上階層の男女総数は24.3%→24.8%、男子は22.6%→23.1%、女子は26.9%→27.6%となっている。

対岡山県比の場合、15～64歳階層の男女総数は0.71%→0.47%、男子は0.63%→0.44%、女子は0.84%→0.51%となっている。一方、65歳以上階層の男女総数は1.16%→1.20%、男子は1.02%→1.06%、女子は1.40%→1.41%となっている。

以上のように、対真庭郡比は15～64歳階層では経年的に幾分低下し、65歳以上階層では大きな変化はみられない。一方、対岡山県比は15～64歳階層において著しい低下がみられ、65歳以上階層では変化はみられない。

(2) 4か町村

各町村における労働力人口の推移状況を表13に基づき記すと以下のようである。

(a) 労働力人口総数

昭和55年における男女総数の15～64歳階層は、川上村1,390人、八束村1,792人、中和村581人、湯原町2,456人となっている。一方、65歳以上階層は、川上村194人、八束村254人、中和村69人、湯原町340人となっている。

同年以降、15～64歳階層は各町村とも減少パターンで推移し、昭和30年に対し平成12年に川上村は22.9%減の1,072人、八束村は24.1%減の1,361人、中和村は36.0%減の372人、湯原町は40.4%減の1,464人となっている。一方、65歳以上階層は増加パターンで推移し、平成12年に川上村は59.3%増の309人、八束村は36.6%増の347人、中和村は40.6%増の97人、湯原町は15.6%増の393人となっている。

(b) 男子労働力人口

昭和55年における15～64歳階層は、川上村730人、八束村934人、中和村300人、湯原町1,266人となっている。一方、65歳以上階層は、川上村123人、八束村137人、中和村39人、湯原町178人となっている。

同年以降、15～64歳階層は減少パターンで推移し、昭和30年に対し平成12年に

川上村は20.3%減の582人、八束村は22.5%減の724人、中和村は29.7%減の211人、湯原町は36.3%減の806人となっている。一方、65歳以上階層は増加パターンで推移し、平成12年に川上村は35.0%増の166人、八束村は40.9%増の193人、中和村は56.0%増の62人、湯原町は15.2%増の205人となっている。

(c) 女子労働力人口

昭和55年における15～64歳階層は、川上村660人、八束村858人、中和村281人、湯原町1,190人となっている。一方、65歳以上階層は、川上村71人、八束村117人、中和村30人、湯原町162人となっている。同年以降、15～64歳階層は減少パターンで推移し、昭和30年に対し平成12年に川上村は25.8%減の490人、八束村は25.8%減の637人、中和村は42.7%減の161人、湯原町は44.7%減の658人となっている。一方、65歳以上階層は増加パターンで推移し、平成12年に川上村は101.4%増の143人、八束村は31.6%増の154人、中和村は16.7%増の35人、湯原町は16.0%増の188人となっている。

(d) まとめ

4か町村における昭和55年～平成12年間ににおける15～64歳階層人口は減少パターンで推移し、65歳以上階層人口は増加パターンで推移している。以上の推移経過を踏まえ、昭和30年と平成12年の両時点における増減率の概数（小数点以下四捨五入）は次のとおりである。

15～64歳階層人口の減少率は、男女総数は湯原町40%、中和村36%、八束村24%、川上村23%の順となり、男子は湯原町36%、中和村30%、八束村23%、川上村20%、女子は湯原町45%、中和村43%、八束村と川上村26%の順となっている。

65歳以上階層人口の増加率は、男女総数は川上村59%、中和村41%、八束村37%、湯原町16%の順となり、男子は中和村56%、八束村41%、川上村35%、湯原町15%、女子は川上村101%、八束村32%、中和村17%、湯原町16%の順となっている。

2 労働力人口の年齢階層別割合の推移

上述した15～64歳階層と65歳以上階層のうち15～64歳階層の構成割合の推移を労働力人口男女総数、男子労働力人口、女子労働力人口に分け、表14により蒜山地域、真庭郡及び岡山県について記述すると以下のようである。

(1) 蒜山地域

蒜山地域における労働力人口総数（男女）の15～64歳階層割合は、昭和55年に87.9%となり、その後は縮小基調で推移し、同55年に対し平成12年には9.1ポイント縮小の78.8%となり、その縮小率は10.4%となっている。

上記の15～64歳階層割合を男女別にみると、男子の場合は昭和55年に87.1%となり、その後は縮小基調で推移し、平成12年に8.3ポイント縮小の78.8%となり、その縮小率は9.5%となっている。一方、女子の場合は昭和55年に88.7%となり、その後は縮小基調で推移し、平成12年に9.8ポイント縮小の78.9%となり、その縮小率は11.0%となっている。

真庭郡における労働力人口総数の15～64歳階層割合は、昭和55年に88.9%となり、その後は縮小基調で推移し、同55年に対し平成12年には6.4ポイント縮小の82.5%となり、その縮小率は7.2%となっている。

上記の15～64歳階層割合を男女別にみると、男子の場合は昭和55年に87.7%となり、その後は縮小基調で推移し、平成12年には5.9ポイント縮小の81.8%となり、その縮小率は6.3%となっている。一方、女子の場合は昭和55年に90.3%となり、その後は縮小基調で推移し、平成12年に6.6ポイント縮小の83.7%となり、その縮小率は7.3%となっている。

岡山県における労働力人口総数の15～64歳階層割合は、昭和55年に92.2%となり、その後は縮小基調で推移し、同55年に対し平成12年には1.8ポイント縮小の90.4%となり、その縮小率は2.0%となっている。

上記の15～64歳階層割合を男女別にみると、男子の場合は、昭和55年に91.7%となり、その後は縮小基調で推移し、平成12年には1.9ポイント縮小の89.8%となり、その縮小率は2.1%となっている。一方、女子の場合は、昭和55年に92.9%となり、その後は縮小基調で推移し、平成12年には1.7ポイント縮小の91.2%となり、その縮小率は1.8%となっている。

以上で記述した蒜山地域における労働力人口（男女総数、男子、女子）の15～64歳階層割合の推移状況のまとめとして、同割合の概数（小数点以下四捨五入）を昭和55年と平成12年の両時点において真庭郡及び岡山県と対比的に列記すると以下のとおりである。

蒜山地域、真庭郡及び岡山県における労働力人口総数、男子及び女子労働力人口の15～64歳階層割合は時系列的に縮小基調で推移している。そのような推移経過のもとで、労働力人口総数の15～64歳階層割合は、昭和55年に岡山県92%、真庭郡89%、蒜山地域88%の順となり、平成12年には岡山県90%、真庭郡83%、蒜山地域79%の順となっている。

男女別にみると、男子の場合は、昭和55年に岡山県92%、真庭郡88%、蒜山地域87%、平成12年には岡山県90%、真庭郡82%、蒜山地域79%の順となっている。一方、女子の場合は、昭和55年に岡山県93%、真庭郡90%、蒜山地域89%、平成12年には岡山県91%、真庭郡84%、蒜山地域79%の順となっている。

上記のように蒜山地域の労働力人口の15～64歳階層割合は、岡山県及び真庭郡と比べて低く、しかも昭和55年の同階層割合に対する平成12年の縮小は顕著となっている。以上の蒜山地域における15～64歳階層割合の低水準は65歳以上階層割合の高水準の反映であり、同地域における労働力人口の高齢化の程度は、真庭郡を超えて進み、しかも岡山県レベルとの対比において顕著に認められる。

（２） ４か町村

各町村における労働力人口の15～64歳階層割合の推移状況を表14により記述すると以下のようである。

労働力人口総数の15～64歳階層割合は、昭和55年に川上村87.8%、八束村87.6%、中和村89.4%、湯原町87.8%となり、同55年に対し平成12年には川上村は10.2ポイント縮小の77.6%、八束村は7.9ポイント縮小の79.7%、中和村は10.1ポイント縮小の79.3%、湯原町は9.0ポイント縮小の78.8%となっている。

上記の15～64歳階層割合を男女別にみると、男子の場合は昭和55年に川上村85.6%、八束村87.2%、中和村88.5%、湯原町87.7%となり、平成12年には川上村は7.8ポイント縮小の77.8%、八束村は8.2ポイント縮小の79.0%、中和村は11.2ポイント縮小の77.3%、湯原町は8.0ポイント縮小の79.7%となっている。一方、女子の場合は、昭和55年に川上村90.3%、八束村88.0%、中和村90.4%、湯原町88.0%となり、平成12年には川上村は12.9ポイント縮小の77.4%、八束村は7.5ポイント縮小の80.5%、中和村は8.3ポイント縮小の82.1%、湯原町は10.2ポイント縮小の77.8%となっている。

以上で記述した4か町村の労働力人口（男女総数、男子、女子）における15～64歳階層割合の推移状況のまとめとして、同階層割合の概数（小数点以下四捨五入）を昭和55年と平成12年の両時点において列記すると以下のようである。

労働力人口総数の15～64歳階層割合は、昭和55年に中和村89%、川上村、八束村、湯原町各88%の順となり、平成12年には八束村80%、中和村と湯原町各79%、川上村78%の順となっている。

男女別にみると、男子の場合は昭和55年に中和村89%、湯原町88%、八束村87%、川上村86%、平成12年には湯原町80%、八束村79%、川上村78%、中和村77%の順となっている。一方、女子の場合は昭和55年に川上村と中和村各90%、八束村と湯原町各88%の順となり、平成12年には中和村82%、八束村81%、湯原町78%、川上村77%の順となっている。

以上のように労働力人口の15～64歳階層割合は、男女総数、男子、女子いずれの場合も昭和55年に対し平成12年には10ポイント前後縮小し、高齢化の程度が進行して

いる。そして女子の同階層割合は両時点において全体的に男子を上回っている。ただ、例外として昭和55年に八束村、平成12年には川上村と八束村において男女の同階層割合は極めて近似し、湯原町の場合は女子の方が幾分下回っている。